



発行：令和5年11月  
山城ネット（情宣チーム）

## 序

令和5年夏、コロナ禍に活動を休止をしていた聴覚障害者の豊かな暮らしを築く山城ネットワーク委員会（以下：山城ネット）のチーム活動が緩やかに再開されることとなりました。まだコロナ前と同じ動きがとれないところもありますが、ここに情宣チーム活動再開初の速報が発行できる運びとなりました。

「速報」は大きな行事や出来事を皆で共有する為に発行します。

# 聴覚障害者の豊かな暮らしを考える山城研修会 (暮らし研修会)

## 第1回 7月16日(日) 13:00～ 京都府聴言センター 「山城ネットワークの歩みと施設・事業づくり」

長らく開催できなかった暮らし研修会を再開するにあたり、まずはコロナウイルスの感染対策の可能な範囲を保った小規模での開催となりました。

色々など意見など届いております。今後の参考にさせていただきます。

## 第2回 9月30日(土) 13:00～ 京都府聴言センター 「各地域ネットの要望書について」

前半、各地域ネットの要望について話し合い、その後、3グループに分かれて話し合いました。



### グループ1



- ・介護保険のサービスを利用する時、ヘルパーさんとのコミュニケーションに時間がかかり実質の時間が少なくなってしまうのは不公平などの問題について、今後、制度をしっかり学びたい。
- ・災害時の避難場所での情報保障などの問題。  
盲ろう者にも災害マニュアルの説明の場をつくってほしい。
- ・外出時の無人駅での対応について、解決に向けて動きたい。

### グループ2

- ・通訳者・要約筆記者・盲ろう介助者の報償費の引き上げについて  
聴覚障害者の協力・応援も必要、職業として選択できるためにも引き上げは必要。
- ・手話言語条例成立までの経過についての報告  
八幡市：議員の協力、月1回の勉強会



### グループ3

- ・手話言語条例が“ある市町村”と“ない市町村”では要望にも違いがある。
- ・条例があるなら、うまく活用して要望していくべき。
- ・条例ができた時からが運動の始まり。
- ・市役所に設置通訳者が“居るか”“居ないか”で行政の考え方が違うようだ。

